

授業概要

対人援助職を目指すものとして、カウンセリング・マインドの獲得は、必須であろう。本講義では、

- ① 基本的なカウンセリングの技法を理解し、実践できるようになること
- ② カウンセリング・マインドを保護者との関係作りに活かし、話を聴けるようになること
- ③ 子どもの発達状況、心理的特質等に即した関わりがもてるようになること を目指している。

併せて、保育現場や学校現場でよくある相談内容について、教員・その専門性を活かして対応することができるように、講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	カウンセリングの基礎理論
第 3 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～傾聴の姿勢（演習）～
第 4 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～共感的な伝え返し（演習）～
第 5 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～話し手が自分自身の声を聴くために（演習）～
第 6 回	教育相談と心理療法の違い
第 7 回	自分のコミュニケーションの癖を知ろう
第 8 回	教育実習を踏まえて ～教育相談の対象となる事例の報告～
第 9 回	発達障害の基礎
第 10 回	事例から学ぶ ～言葉の遅れ～
第 11 回	事例から学ぶ ～友達関係～
第 12 回	事例から学ぶ ～行動～
第 13 回	クラス経営に活かす教育相談
第 14 回	保護者との相談に臨む際に大切なこと
第 15 回	地域資源を活用しよう ～多職種との協働～
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・カウンセリング・マインドを身に付けること
- ・よくある相談内容について、教員・保育士ならではの対応の基本を理解すること
- ・学んだことを、実践に活かせること

履修上の注意

- ・ロールプレイやグループワークを取り入れるため、毎回出席の上、積極的に取り組むこと
- ・毎回プリントを配布するので、専用のファイルを作り、保管すること（提出を求めることがある）
- ・出欠は、毎時確認する。遅刻扱いは、授業開始後 30 分以内、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

予習・復習

予習課題・復習課題が提示される場合があるので、その際は必ず実施すること

評価方法

定期試験（50%）受講態度（30%）提出物（20%）として、総合的に評価する。

テキスト

必要に応じて、参考文献を紹介する。